

足工大

# 若い感性で街づくり

## 日赤跡地の活用など提案

【足利】足利工業大工学部の学生たちが「史跡足利学校周辺の活性」「足利赤十字病院跡地の活用」の二つのテーマで街づくり計画を立案し、13日、足利商工会議所で、大型模型を使って発表した。

ユニークな計画を披露したのは都市環境工学科3年の43人。4年前から、大沢秀也・元、実際に現地を歩いて足利青年会議所理事長ら非常勤講師4人の指導を受け、地元の街を見詰め、将来を描くフリードワークを実施している。2年前から「教育的な観光施設が少ない」など課題を探り出し、解決に向けた手法を検討した。

発表は、8グループに分かれて行った。病院跡地を桜の木を配した公園や動物公園、足工大の新キャンパスにするなど、さまざまに



大型模型を使って、病院跡地の活用計画を説明する学生

街の将来を夢描いた。審査員は、NPO法人「VAN」の「NOOGA」の大川博美理事ら市民3人。足

利学校周辺に足利タワーや温泉施設を造る計画には「大胆な発想で驚いた」との声が上がった。

約30年にわたり、全国各地の街づくりプロジェクトに携わってきた同科の築瀬範彦教授は「実現性や採算性を考えず、学生らしい自由な発想に基づいた構想が見られた」と振り返った。